



特別展

ペイズリー文様の展開

カシミアショールを中心に

12月1日〔水〕

1993

— 1月30日〔日〕

1994

渋谷区立松濤美術館

ペイズリー文様の展開

カシミアショールを中心に

現代の私たちの生活を見回しますと、しずくの形をしたペイズリー文様がバッグ、スカーフ、ネクタイなど服飾や日用品のデザイン、装飾として頻繁に使用されていることに気づきます。国際的に文様の王者としての地位を確立しつつあるかに思えるペイズリー文様は、いつ、どこで生まれ、どのようにして日本にたどり着いたのでしょうか。

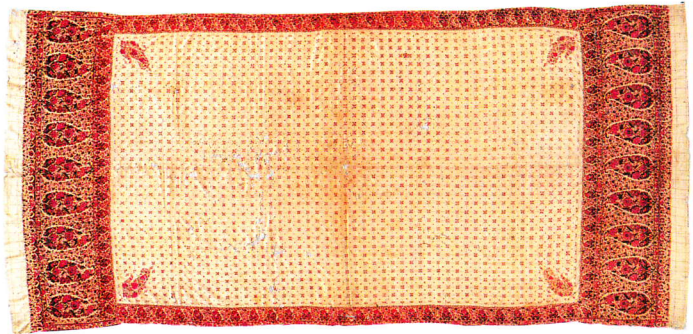
ペイズリー文様は17世紀後半の北インド・カシミール地方で誕生しました。インドの王(マハラジャ)が着用したショールの裾に施されたバラや芥子などの草花がペイズリー文様の母体となりました。やがて、しだいに曲がって密集してゆき、18世紀にはしずく形、マンゴー形をしたペイズリー文様が姿を現わしていったのです。インド、イランではこの文様はプータ又はボテとよばれ、ショールの文様から一般工芸、建築の装飾文様として広がってゆきました。

一方、19世紀を中心に、豪華なカシミアショールがヨーロッパの貴婦人たちの心を捉え、インドの高額輸出品となりました。高価な手織りのカシミアショールを買えない人々の為にジャガード織り機が発明され、機械織りのショールが大量に生産されるようになりました。イギリス・スコットランドの都市グラスゴウの郊外ペイズリー市では、この文様をあしらったショールが生産され、文様の名の由来となったのです。ヨーロッパ人はインドのボテ文様の模写と新たなヴァリエーションの創作に情熱を傾けた結果、彼らの感性に合わせてペイズリー文様はよりしなやかに、複雑にあるいはグロテスクへと発展してゆきました。日本には20世紀後半を中心に流入し、ヨーロッパでは近年、ファッション界でリバイバルの波が興っています。

本展は華麗、精緻なカシミアショールを中心にインドのサリー、衣装、カーペット、更紗などに、ヨーロッパ製ショールやデザイン画などを加えて約140点の作品で構成し、ペイズリー文様の多様な美と変遷を鑑賞していただきます。



カシミアショール、19世紀、シルクロード研究所蔵



カシミアショール、19世紀初頭、シルクロード研究所蔵



デザイン画、ヨーロッパ、19世紀、亀井温古館所蔵

講演会(午後2時より)

12月11日(土)

「カシミアショールの世界 -カシミールからスコットランドまで-」

講師:道明三保子(文化女子大学教授)

平成6年1月22日(土)

「インド・東南アジアの染織とペイズリー文様」

講師:小笠原小枝(日本女子大学教授)

美術映画会(午後2時-3時)

12月4日(土) 滲みの感覚(日本の美1)、

空間のドラマ -厳島神社管絃祭り-(日本の美2)、

平成6年1月23日(日) 風月のデザイン -遠像と近像-(日本の美3)

水平と垂直(日本の美5)、

美術相談(午後2時-4時)

12月5日(日) 講師:宮田翁輔(油絵)、戸田康一(日本画)

平成6年1月29日(土) 講師:遠藤源三(油絵)、磯村敏之(油絵)

開館時間:

午前9時-午後5時[入館は4時30分まで]

休館日:

12月6日(月)、12日(日)、13日(月)、
20日(月)、24日(金)、27日(月)、
29日(水)-1月3日(月)、1月9日(日)、
10日(月)、17日(月)、18日(火)、
24日(月)

入館料:

一般200(160)円/小・中学生100(80)円
()内は20名以上の団体料金

渋谷駅下車徒歩15分/神泉駅下車徒歩5分
東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03(3465)9421
2-14-14, SHOTO, SHIBUYA-KU, TOKYO

